船橋在宅医療
ひまわりネットワーク

地域リハ推進委員会　ニュース　No.4

石川　誠　さん　追悼臨時号

船橋市における地域リハビリテーションの
基盤整備に力を注いだ

石川 誠 さんを偲んで

石川　誠 氏　　略歴

第１回　研究大会　基調講演

1965 年		東京都立日比谷高校卒業
1973 年		群馬大学医学部卒 群馬大学医学部卒脳神経外科研修医
1975 年		佐久総合病院脳神経外科医員
1978 年		虎の門病院脳神経外科 (虎の門分院リハビリテーション担当) 医員
1985 年		リハビリテーション専門医資格を取得
1986 年	４月	高知県　近森病院 赴任
1989 年	12 月	近森リハビリテーション病院 開院
1998 年	２月	たいとう診療所　開設
2002 年	６月	初台リハビリテーション病院　開院
2004 年	４月	在宅リハビリテーションセンター成城　開設
2008 年	４月	船橋市立リハビリテーション病院　開院 （指定管理）
2014 年	４月	船橋市リハビリセンター　開設（指定管理）

船橋市における地域リハビリテーション活動に参集した
メンバーから寄せられたメッセージ

タイトル

1	石川誠先生を偲んで	松戸　徹
2	石川先生がくれたもの	玉元　弘次
3	石川誠先生へ感謝！	松岡　かおり
4	石川誠先生を悼む	吉田　幸一郎
5	船橋歯科医師会と石川誠先生	齋藤　俊夫
6	石川先生を偲んで	田代　晴基
7	石川先生ありがとうございました	杉山　宏之
8	石川先生に感謝して、ご冥福をお祈りいたします	梶原　優
9	日本一のリハ病院に	菅谷　和夫
10	石川先生の教えを授かり	田中　康之
11	石川さんの想いをこの胸に焼きつけて！	松川　基宏
12	理念を体現する人	金本　英司
13	その魂、今も私の中で生きています	吉田　浩滋
14	船橋の絆に想いをこめて ～これからも仲間を大切にしていきます～	杉田　勝
15	伝え　そして　繋がる	鈴木　ひとみ
16	「One for all，All for one」	三井　陽子
17	石川さんに教えてもらった、私にとって大切なもの！！	吉田　友則
18	石川先生を偲んで	小倉　雅治
19	石川さんへ	塩原　貴子
20	石川先生を偲んで	加藤　寿美
21	石川先生を偲んで	福島　節子
22	石川先生を偲んで	馬場　さつき
23	石川先生との思い出	市川　清実
24	石川先生、船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会は、再活性化をめざします	池田　喜久子
25	石川誠先生のご意志である船橋市地域リハ推進に向けて	伊藤　秀一
26	石川先生を偲んで	佐々木　啓人
27	石川先生を偲んで	久保田　惠子
28	石川先生を偲んで	石神　敏明
29	石川先生の想い、本人の願いの実現 「One for all，All for one」を永遠に！	藤田　敦子
30	「One for all，All for one」	梅津　博道
31	石川さんと船橋における地域リハ活動	江尻　和貴
32	なかまづくりの大切さ	斎藤　伸也

石川 誠 先生を偲んで

松戸　徹　　船橋市　市長

石川誠先生がご逝去されたことは本当に残念でなりません。亡くなられた知らせを受けた時、大きな驚きとともにこれまでの船橋市に対するご功績が頭を駆け巡り、同時に、先生のいつもの優しい笑顔が目にうかびました。

船橋市では、昭和 58 年に市立医療センターを開院後、急性期患者数の増加により、疾病や外傷等により後遺症等で障害を負いながら退院する患者も増えてきました。そのため、有効なリハビリテーションという処方箋を提供するため、平成 10 年頃より“急性期医学的リハビリテーション専門病院” の設置に向けて市と市医師会はじめ関係者による検討が始まりました。船橋市にどのようなリハビリテーション病院をつくるのか試行錯誤を繰り返していましたが、その際に日本のリハビリテーションの第一人者であった石川先生に検討委員会の委員に就任していただき助言をもらいながら幾多の検討を重ね、平成 20 年に現在の船橋市立リハビリテーション病院を開設することができました。

その後、石川先生が理事長を務める医療法人に指定管理者を担っていただくことになりましたが、その活動は病院内の取り組みにとどまらず、急性期から回復期、地域生活期へと適切にリハビリテーションが継続されるシームレスな地域リハビリテーション体制の構築や地域リハビリテーションの普及啓発、医療介護福祉関係者の垣根のない多職種連携ネットワークの構築などの必要性を強く発信され、その実現に向けて精力的に取り組んで下さいました。その活動は、現在の医療介護障害等の 28 団体からなる多職種多団体のネットワーク、船橋在宅医療ひまわりネットワークの設置の礎になっています。

人は望まなくても病気やケガや障害を負うことがあります。石川先生、ひまわりネットワークの会長である玉元前医師会長をはじめ多くの方々によって築かれてきた体制は、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりの上で重要な役割を果たしてくれています。

これまでの石川先生の数々のご功績に心より感謝を申し上げますと共に、石川先生が目指したご意志を多くの皆さんと共有しながら、引き継いで実現することが残された私達の使命であると思います。

石川先生、本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

石川 先生がくれたもの

玉元　弘次　　一般社団法人船橋市医師会　監事
船橋在宅医療ひまわりネットワーク　代表

石川誠先生のご逝去の報に接し、心からお悔やみ申し上げます。

今思い出しますと、毎月、市立リハビリテーション病院の会議室に市内の医療機関、介護事業所、施設等に勤務する多職種が各職能団体等を代表して参集し、地域リハビリテーションの推進、地域包括ケアシステムの構築に向けた活動の礎を築くための議論を交わしていました。

現在、船橋市に多職種協働の在宅医療・介護連携ネットワークである「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」があるのも、石川誠先生が船橋に来て、船橋で理想の地域リハビリテーション活動を実現しようと様々な形でその意志を示していただいたからこそであると思います。

振り返れば、船橋市立リハビリテーション病院開院が平成 20 年 4 月、その前年平成 19 年には地域リハビリテーション協議会が立ち上げられ、平成 22 年には地域リハ研発足、そして平成 25 年に船橋在宅医療ひまわりネットワーク発足、平成 26 年にはリハビリセンターのリニューアルオープンとひまわりの活動の本格化、平成 28 年には地域リハ研がひまわりと合流し地域リハ推進委員会へと姿を変え現在に至っていますが、濃密に地域リハ、包括ケアの取り組みが盛んであったかがわかります。

この間に石川誠先生が船橋市に残してくれたものは枚挙にいとまがないのですが、やはり超高齢社会に対応するため、我が国の医療・介護サービスをより円滑に、的確に、十分に市民に享受してもらうための多職種連携の大切さであり、その人の尊厳を守ることを大切にする“こころ”ではないかと私は思います。

残念ながら石川誠先生は天に召されました。大きな損失でありますし、さぞご本人もまだいっぱいやりたい事があったのではないでしょうか。

我々船橋市で医療・介護を実践する多職種の関係者は、石川誠先生が残された“こころ”を実践しながら、明日のふなばしのために頑張っていこうではありませんか！

合掌

石川 誠 先生へ感謝！

松岡　かおり　　公益社団法人千葉県医師会　理事
一般社団法人船橋市医師会
ひまわり地域リハ推進委員会委員

石川先生と初めてお会いしたのは、15 年ほど前、船橋市の地域リハビリ推進の会議だったと思います。元医師会長の吉田先生から声をかけられ、いつの間にかこんな状況になっていたと何かにつけてお話されていましたね。

その後、船橋市立リハビリテーション病院が開設して有志で地域の集まりが始まった時は、みんなボランティアだから、と手作りのデザートを振る舞っていただきました。その集まりは全国的にも珍しい市単位での地域リハビリテーション事業へ発展、研究大会や地区勉強会が始まり、地域の医療介護職連携やスキルアップのシステムの土台となりました。また、茨城の大田先生を招聘され、最終的には「ふなばしシルバーリハビリ体操」の導入となり、その手腕には驚かされてばかりでした。

「船橋は市と医師会が一緒になってるからとても良い」と言っていただいた先生、そのリハビリマインドは沢山の種となり、沢山の実りをもたらしてくれました。また、講演会の後にはラガーマンらしく円陣を組んでかけ声をだしあったことは楽しい想い出です。本当にありがとうございました。

感謝とともにご冥福をお祈りいたします。

第１回　研究大会　会場

懇親会　風景

石川 誠 先生を悼む

吉田　幸一郎　　船橋市保健医療福祉問題懇談会　会長

先生と初めてお会いしたのはいつだろう？船橋市にリハビリ病院が必要だというので当時の医療問題懇談会が近森病院など見学した遥か昔から、日本のリハビリテーション医学のリーダーであった先生。市役所の会議室で、これから建設する船橋市立リハビリ病院の構想を、先生をお招きして何回もご指導を頂きました。

リハビリ病院が実現できる段階で、管理者には是非石川先生になっていただきたいと思い、当時の市立医療センター脳外科の金先生、市役所の山越さんと医師会役員の私と３人で、初台のリハビリ病院を訪ねました。その帰りに金先生が、石川先生は地域リハビリテーションの立派な構想を持っており、船橋市と連携が密な医師会、市立医療センターがあるので、きっと彼の夢が実現できるから、船橋に来てくれるはずだと言っていた記憶があります。

それが現実のものとなりました。石川先生の凄いところは、地域のリハビリ関係者を集めて研究会を定期的に開いたことです。当時地域包括ケアの構想が全国的に、介護保険サービスの発展とともに始まったところでした。先生の指導によって船橋の地域リハビリテーションシステムも拡充しました。今でも定期的に地域研修会も継続されています。

先生から多くの薫陶を受けた人々が、先生の遺志を継ぎ、市民が安心して暮らせる船橋市になるよう頑張りましょう。

石川誠先生　有難う！

船橋歯科医師会と石川 誠 先生

齋藤　俊夫　　公益社団法人船橋歯科医師会　顧問
船橋在宅医療ひまわりネットワーク　副代表

石川誠先生のご逝去に衷心よりお悔やみ申し上げます。

船橋市立リハビリテーション病院が開設された平成 20 年に歯科室での訪問診療の依頼が船橋歯科医師会にあり、当時かなり会議を重ね、その際に輝生会石川理事長の意向をお聞きしたのが、私たち歯科医師会と先生との関わりの始まりでした。

何よりも食べることがリハビリの基盤であり、早期に口の中の環境を整えてほしい、初台の方では歯科医師を直接お願いしたが、船橋の方では歯科医師会の方にお願いしたいというものでした。実際、病院を見学させて頂いた時にも、既存の病院とは違い、病室ではなく可能な限りホテルのような食堂で美味しいものを食べてもらい、社会復帰のための食べるという重要性を考え貫かれたものと感じました。それは当時の一般歯科の考え以上のものであり、単に歯をきれいにするだけでなく、食べるための口腔機能をみるのが君たちの使命だよと教示して下さったものでした。

本会では会員から協力医を募り、最初は飯島美智子先生に、その後病棟が増えるに従い順次協力医を増やし現在に続いています。

また、地区勉強会では多職種のグループワークに参加し様々な意見を聞くことの大事さを教わったり、研究大会や地域リハ推進委員会では色々な方と知り合うことができ、そこから今の船橋在宅医療ひまわりネットワークへと繋がっていったと思います。さらに、食べることをもっとみんなで勉強したらと勧められ、リハ病院、船橋市栄養士会と平成 25 年にはじめた摂食栄養サポート勉強会も回を重ね 17 回に達しました。平成 26 年の先生が大会長となった第 20 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会では末席でお手伝いをさせて頂き、その熱気に直に触れることで先生から無言で諭されたような気がします。

様々な関わりの中で地域の医療介護連携の課題を知り、本会の役割を果たすべく船橋市歯科診療所をはじめ種々の事業を進めながら、現在の赤岩会長に至っています。One for all , All for one、キャンピングカーでどこかの釣り場にいらっしゃる石川誠先生、本当にありがとうございました。

石川 誠 先生を偲んで

田代　晴基　　公益社団法人船橋歯科医師会
（船橋市かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所）

突然の訃報をうかがったときは驚きとともに深い悲しみでいっぱいだったことを記憶しております。ここに謹んで哀悼の意を表するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

私は歯科医師として平成 27 年 10 月に船橋で仕事をさせていただくようになり、船橋の医療介護福祉のつながりの中で石川誠先生と出会いました。ある日のシンポジウム後の懇親会でご一緒させていただき非常に楽しいお酒の席だったことを覚えています。その後も会議で元気なお姿をお見掛けし、船橋の医療介護をよりよくするためにご尽力されており、そんなお仕事を一緒にさせていただけたことをとても光栄に思います。

船橋の医療介護福祉のより良い発展に貢献できるよう微力ではありますが尽くしたいと考えております。

どうか安らかにお眠りください。

石川 先生ありがとうございました

杉山　宏之　　一般社団法人船橋薬剤師会　会長
船橋在宅医療ひまわりネットワーク　監事

石川先生、お疲れ様でした。そして、ご指導いただきありがとうございました。

船橋薬剤師会の理事として「船橋市地域リハ研究会」に参加させて頂く様になってから、石川先生の存在を知りました。研究会では先生の司会で、他職種の方々がどの様な活動をしているのか良く分りました。自然と私達薬剤師の活動も促されました。また、最新の情報が提供されるのも、石川先生のお力なのだと感じました。研究会で他職種の方と知り合えたことは、とても有意義なことでした。

平成 26 年 9 月に東京で開催された「第 20 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会」にスタッフとして参加した際、終了時に私にも声をかけて下さり、その時の先生の笑顔がとても印象的でした。

ご冥福をお祈り致します。

石川 先生に感謝して、
ご冥福をお祈りいたします

梶原　優　　船橋市介護老人保健施設協会　会長
医療法人弘仁会　会長

石川誠先生の訃報に接し、大きな衝撃とともに、石川先生との 35 年間の想い出が走馬灯のように想い起こされました。

石川先生とは高知県のリハビリ専門病院として名高い近森病院の勤務当時から知己を得て、高知市を訪れた折は会食をともにしました。その後、初台リハビリテーション病院の院長に就任し、長嶋監督の脳卒中リハビリを行ったことは有名であります。

時を得て、船橋市立医療センターの前にリハビリテーション病院建設の計画が決まり、近森病院、初台リハビリテーション病院の経験を活かし、石川先生に建設委員会委員をお願いし、理想のリハビリテーション病院建設が始まりました。病院建設が完成に近づくにつれ、誰がリハビリテーション病院の運営を行うのかと、石川先生に尋ねられ、「船橋市には能力のある適任者は皆無であり、先生には建設から携わっていただいたのだから事業管理者となって、人材の確保から設備、システム、と理想の日本でトップレベルのリハビリテーション病院を育成してほしい。」とお願いいたし、快く引き受けていただいたことが昨日のように想われます。

船橋グランドホテルにおいて、リハビリテーション病院開設記念パーティー開催時、石川先生が「梶原君には上手に誘導された。」と少しばかり、恨み節を発していましたが、リハビリテーション病院開院後の目覚ましい発展は誰もが知るところであります。石川先生と私との同じ価値観は、チーム医療の中で、あらゆる職種の人材を人財に変え、医療においても、リハビリにおいても、その質を高めることが第一であるということです。特に石川先生の洞察力の極みは、将来の地域包括の中で船橋市内の各病院、各施設のリハビリ関係者の育成、ネットワークの構築にも尽力されました。石川先生に衷心より感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

お陰様をもちまして、船橋市は千葉県内の中核市として発展し、急性期医療からリハビリ、療養型医療、介護、福祉まで、施設から在宅まで、地域包括のネットワークが構築され、県内でもトップクラスの体制が出来ております。これも長年の伝統である行政と医師会との強い信頼関係の賜物と考えております。

これからも石川先生の御霊が船橋の将来を見守っていただけることを願っております。

合掌

日本一のリハ病院に

菅谷　和夫　　船橋市介護老人保健施設協会
医療法人弘仁会　顧問

私が石川先生に初めてお会いしたのは確か平成14年7月でした。

市立リハビリテーション病院を建設するための船橋市のリハビリテーション病院設置・運営形態検討委員会の席上であった。その7月1日に市健康福祉局長を命ぜられ最初の大きな会議であった。石川先生については細かいやりとりは覚えてないが、リハビリ学会のトップの人と後輩職員から紹介されていた。

リハビリ病院は私にとってそれより7年ほど前の医療センター事務局長の時に民間病院を買収、リハビリ病院にしようと試みましたが失敗。

医療センターでの治療を終えたのちの急性期の患者に必要なリハビリ病院で、そのための委員会であった。そこに私が担当するとは、、、

その後、委員会会長等の御意見等から建設の方針を”日本一のリハ病院を作ろう”ということを決めた。そして当時の日本のリハビリ医療を牽引していた初台リハビリ病院を参考として石川先生のアドバイスを得ながら設計。

そして日本一の病院にするため運営を当時日本のリハビリ医療を牽引していた”石川先生“にと決め、検討委員会会長等と招聘交渉に入った。ここまでが私が市職員としての仕事であった。

その後、指定管理者制度として石川先生代表の輝生会に運営することとなり、院長に石川先生で開院。加えて検討委員会で議論された病院開設後の市内リハビリ関係機関との連携についてもひまわりネットワークの中で地域リハ推進委員会を石川先生にリードしていただき医療センター、リハビリ病院、市内リハビリ関連機関と順調に機能できるようになった。

船橋市にとって欠くことのできない石川先生でした。余りにも早すぎるご逝去で、誠に残念である。

だいぶ長くなりましたがリハビリ病院誕生について経過をお話させていただき、石川先生への感謝とさせていただきます。

石川 先生の教えを授かり

田中　康之　　一般社団法人千葉県理学療法士会　会長

石川先生の突然の訃報を伺った時、全く信じられず驚きを隠せませんでした。ただただ残念です。心からお悔やみ申し上げます。

石川先生との出会いは 12、3 年前、東葛南部圏域地域リハ連絡協議会の席でした。かの有名な石川先生です。私はどうにかして直接お話を伺ってみたいと思っておりましたが、残念ながらその思いは叶わず仕舞いでした。

その後、何回か会議で同席をさせて頂いたある日（今では考えられないことですが）会議の休憩中の喫煙所で偶然お会いし、ここぞとばかりに緊張の中ご挨拶をさせていただきました。その後宴席等もご一緒させていただき、名前と顔を覚えていただいた時はとても嬉しかった思いがあります。

その時の先生は“熱い”、“懐が深い”、“先を見る”そして何よりも“ダンディ”で、自分もいつかこういう人になりたいと感じたことを思い出します。

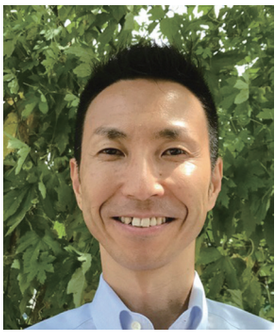
様々な場面で機会があるごといろいろとお教えをいただき、感謝してもしきれません。

令和元年に金沢で開催されたリハビリテーション・ケア合同研究大会でお会いしたのが最後となってしまいました。もっとお話を伺いたかった。残念です。

私たちは、千葉県そして船橋市一丸となってどこに出しても恥ずかしくない地域リハビリテーション活動を展開すること、そして何よりも千葉県民・船橋市民が「ここに住んでてよかった」と思ってもらえることが石川先生の教えに報いることになると思っております。

石川先生、本当にありがとうございました。

石川さんの想いをこの胸に焼きつけて！



松川　基宏　　一般社団法人千葉県理学療法士会　理事
船橋在宅医療ひまわりネットワーク　監事

石川先生の前では最後まで恐れ多くて「石川さん」とは呼べませんでした。今思うと、石川先生の理念がその呼び方に凝集されていたのかと思い、ちゃんと石川さんの面前でお声掛けしておけば良かったとしみじみ感じています。

石川さんのお名前は船橋市に来られる前から常々知っておりましたが、直接お会いしたのは平成 22 年の第 1 回船橋市地域リハ研究会の世話人会でした。日本のリハ医療の現状や課題、展望、船橋市で目指す地域リハの話などを優しい口調ですが、熱意と厳しさの入った言葉で話されていたことを覚えています。その会議には美味しいケーキと飲み物が出されたのですが、会議が終わるまで緊張と石川さんの話に聞き入り、口をつけられずにいて、終わった瞬間に急いで口に運んでいた記憶があります。

この研究会の活動を通して、市内の医師、歯科医師、薬剤師をはじめ様々な専門職の方々と顔の見える関係になれました。また、研究大会では、到底普段お会いできない日本を代表する先生方や厚労省の方々を講師にお招きいただき、生で聴講することが出来ました。また、その打ち上げで一緒に車座でテーブルを囲み、裏話も含めて、上下関係なくざっくばらんに貴重なお話を聞いたり、私の思いを聞いていただいたりしたことが懐かしく思い出されます。そして、打ち上げの終わりには、右手右足を前に出し右親指を立てた格好で〆の言葉を発するというラグビー時代のやり方だったようですが、そこにいる皆が一体となる、「One for all、All for one」で共通の志を目指す仲間となれた瞬間だったと思います。この気持ちを忘れません。

地域リハビリテーションの実現へという志の下、船橋市でも一歩一歩具現化されてきていると感じます。「船橋市で地域リハビリテーションの花を咲かせる」皆で力を合わせて実現させていきたいと思います。

石川さん、どうぞ天国でお見守りください。　　合掌

理念を体現する人

金本　英司　　一般社団法人千葉県作業療法士会

平成 20 年の船橋市立リハビリテーション病院開院から６年間、医療法人社団輝生会の職員としてお世話になりました。「再び輝いた人生」を送っていただきたいという願いを込めて発足した輝生会には素晴らしい５つの基本理念がある。輝生会を離れて８年になるが、未だ忘れることはない。

１.「人間の尊厳」の保持
２.「主体性・自己決定権」の尊重
３.「地域リハビリテーション」の推進
４.「ノーマライゼーション」の実現
５.「情報」の開示

なぜ忘れないかというと、当時からこの理念が形だけのものではなく、日常のリハ業務をする上で常に意識することを求められていたからです。患者さまに「再び輝いた人生」を送っていただくための羅針盤でもありました。

その他にもチームアプローチ力を高め、回復期リハの使命を果たすための仕かけも様々であった。医師であっても“先生”を呼ばず、全職員が互いに「～さん」と呼ぶ。ユニフォームも全職種同一。365 日リハの実施。１日最大９単位（３時間）のリハ時間を提供。定期的なカンファレンスの実施。リハスタッフによる早出・遅出の実施など、現場で生み出された知恵・工夫に満ちた職場でした。

石川さんは忙しい仕事の合間に、患者さまのリハビリ時間、現場をよく回って見ていました。患者さまへ朗らかに声をかけるのはもちろんのこと、若いスタッフにも分け隔てなく接していた姿を懐かしく思い出します。

石川さん、ありがとうございました。

その魂、今も私の中で生きています。

吉田　浩滋　　一般社団法人千葉県言語聴覚士会　副会長

船橋市立リハビリテーション病院が開設された 2008 年、私は隣接する鎌ケ谷市の障がい福祉課に勤務していました。

当時は「公設民営」ということが行政改革の切り札のようにいわれ、建物は行政が作るが、その運営はノウハウをもった医療法人や社会福祉法人等が行うということが盛んに行われていました。

鉄道を例にあげると、1988 年、デンマークは線路の管理（下）は国が責任をもち、鉄道の運行は事業者（上）が行うという上下分離方式を採用し、国鉄の改革に成果を上げました。この上下分離方式という鉄道政策は、欧州の鉄道にも広がり、結果的には単一の事業者による国境を越えた輸送を可能にし、鉄道の競争力を強化することになりました。こうした前例もあって、公設民営が脚光を浴びていました。

一方、船橋市に隣接する市川市には「公設公営」の市川市リハビリテーション病院がありました。保健・医療・福祉を一体化した施設として 1984 年に開設され、正式名称は「市川市保健医療福祉センター」でした。私は自治体職員であったので、この二つのリハビリテーション病院の動向には関心を持っていましたし、市川市の保健医療福祉センターの設置に心血を注いだ市川市の幹部職員を個人的に知っていたので、緑に囲まれた市川市リハビリテーション病院の発展を心から願っていました。

やがて、船橋市立リハビリテーション病院は医療法人社団輝生会が運営すること、その理事長が石川誠先生であることを知り、驚きました。石川先生についての私の認識は、脳神経外科医として術後の患者に障がいが残っていても何もされていないことに疑問を抱き、家に帰って自立した生活が出来るまでに回復させるまでが医療の真の姿だと考えるようになり、「リハビリテーション医療」に取り組み始めた先人であること、どんな患者も寝かせきりにしないために、医師だけではなく、看護師やセラピスト、ソーシャルワーカーなどがチームを組んでリハビリに取り組む体制を得意とする医師であるというものでした。やがて、こうした取り組みは「回復期リハビリテーション病棟」のモデルとなっていくのですから、船橋市にリハビリテーションの巨人が降り立ったようなものでした。

開設当初の船橋市立リハビリテーション病院を見学したときには、リハ室の広さ、エスカレーターの乗降訓練用の実物のエレベーターに驚き、職員の服装がスクラブ等

でないこと、患者も病衣ではなく、日常の暮らしのときと変わらぬ服装をしていることになるほど、日常を取り戻すというは、こういうことかと感心したことを今でも覚えています。

その取り組みは、退院した患者のために通所リハや訪問リハビリへと広がり、船橋市立リハビリテーション病院のなかでチームを完結するのではなく、地域に踏み出し、一般市民に向けてリハビリテーションという考え方の啓発を積極的に行い、船橋市のリハビリテーション専門職を集め、研究大会まで始めてしまいます。私は、地域リハビリテーション研究大会の内容の濃さやレベルの高さに恐れを感じ、船橋市地域リハ研究会には足を向けないままに定年を迎えてしまいました。

石川先生の活動の軌跡を眺めていると、ふと、「御調国保病院」の山口先生と重なるものを感じてしまいます。この病院は、現在の尾道市立総合医療センター公立みつぎ総合病院のことです。ここに 1996 年に着任した外科医である山口昇先生は救命救急に力をいれますが、ここで助けた患者が半年から 1 年もすると褥瘡や寝たきりになって再入院になることを知り、病院での診療だけでは問題は解決できないということに気づきます。やがて、再入院の要因が①家庭内の介護力不足、②不適切な介護、③不適切な住環境であることを突き止めると、在宅ケアによる寝たきりゼロ作戦をはじめ、在宅の方々への医療の出前（訪問診療、訪問介護、訪問リハ）を開始し、さらに保健、医療、福祉（行政）の連携を始め、住民参加の健康づくり座談会等も行うようになります。そして、これが地域包括ケアシステムへと発展していくのです。今でも公立みつぎ総合病院の HP には「地域包括ケアシステムはここからはじまりました」と記されているくらいです。

回復期リハビリテーション病棟も、地域包括ケアシステムも、実は医学モデル的な病院での医師による診療には限界があるということを理解し、その改善、解決をめざした活動から生まれたものだったのです。そして、それは石川誠先生であり、山口昇先生という存在無くしては生まれなかったといってもいいでしょう。

残念ですが、その石川先生は鬼籍に入られました。しかし、私は「死者は死なない」と考えていたい。石川先生は旅立たれましたが、その考え方や思想は多くの関係者のなかに生きています。私は、石川先生が小さな疑問を解決する方法としてリハビリテーション医療を見出し、広めたことを決して忘れません。そして、その思いを糧に、自らがもった疑問に取り組み、そのなかで多くの方の満足と自信を生み出す方法を今後も追究していきます。

長い間、お疲れ様でした。私たちのなかで石川先生は永遠に生きていますので、ご安心ください。いずれ、その後の報告に参りますので、楽しみにして待っていてください。

船橋の絆に想いをこめて
～これからも仲間を大切にしていきます～

杉田　勝　　船橋市介護支援専門員協議会　会長
船橋在宅医療ひまわりネットワーク　副代表

石川誠先生（以下、石川さん）の早すぎる旅立ちを心から謹んでお悔やみ申し上げたいと思います。

石川さんから、船橋市の私たちケアマネジャーには多くのエールを頂きながら地域でのリハビリテーション、そしてチームケアの力を教えて頂きました。船橋市での地域リハビリテーションを展開する仕組み、地域包括ケアシステムの原点となる顔の見える関係づくり、地域連携パス、現場で円陣を組み一緒に考えながら、多職種連携の在り方とは何か、利用者視点での医療・介護の考え方について多くの教えを頂きました。

今の船橋市の医療・介護連携において、石川さんの功績（口跡）なくして語るべからず！と言っても過言ではありません。多くの医療関係者と介護関係者とが同じテーブルにおいて、話がし易くなった環境づくりの一躍を担って頂きました。今となっては、私自身も大きなリーダーの喪失に大きな穴が開いた時間しか残りませんが、石川さんが築き上げて下さった、チームアプローチの精神を基に仲間同士の強い絆を大切にしていきたいと思います。

そして、地域リハビリテーション活動を船橋で継続できるよう、一人はみんなのために、みんなは一人のためをモットーに人の尊厳を守れる専門職として誇れるようになって行きたいと思います。

石川さん、本当にありがとうございました。

伝え　そして　繋がる

鈴木　ひとみ　　船橋市介護支援専門員協議会　副会長

The 石川スピリッツは、今でも私の心の中で色あせることなく息づいています。先生に出会えたことに感謝の意を表したいと思います。

石川先生が自らの足で高齢者宅を訪問し、実際の生活状況を目のあたりにし、生活環境の改善に向けたアプローチの話を講演会で聴く機会がありました。

そこで「訪問リハビリのルーツはここにあり」という深い感銘を私は受けました。石川先生が語られるエピソードは、そこに住む人の生き方を受け入れながら、ライフスタイルにエッセンスを加えることで、その人の表情が変わる。つまりは生活の質に関るということを大いに考えさせられるとともに同時に学び、ケアマネジャーとして今でも心に焼き付いています。そして、地域リハビリという概念を私自身初めて知る機会となりました。

また、平成 22 年に地域リハ研究会が設立され、地区ごとの「地域密着型勉強会」の開催が活動の一つになりました。平成 23 年度より、私は南西部地区の介護支援専門員協議会役員として医療、福祉関係者が集まり、多職種との事例検討会の企画、運営から関わらせていただきました。地域の事例検討会では、同じテーブルを介し、医療・介護福祉の専門職がそれぞれの立場で生活に視点をおき、互いの垣根を超えたディスカッションを交わすことができました。

これからも石川先生が発し続けられた「One for all , All for one」を伝承し、チームアプローチの精神を展開していきます。石川先生ありがとうございました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「One for all , All for one」

三井　陽子　　船橋市介護支援専門員協議会　理事

石川先生と過ごした時間は船橋市立リハビリ病院が平成 20 年に創設された時に遡ります。

ケアマネジャーとして退院支援にかかわり、寝たきり状態や車いす生活で歩くことを諦めていた利用者が、年月を経て歩くことが可能になり、在宅生活を続けています。維持期であっても機能回復だけではなく、その人らしさを取り戻していく生活リハビリの重要性を目の当たりにして、まさにチームケアの醍醐味を味わっています。

さらに地域リハ研究会では、多様な実践の中から多職種連携で病院から在宅への一貫した継続支援の研修を作り上げる機会に恵まれ、リハビリ職の視点を取り入れることで、利用者の人生を俯瞰してみることも学びました。

先生から感じ取った温かいお人柄や、受け取った知識をいつまでも忘れないで、ケアマネジャーとして成長し続けたいと思います。

「One for all , All for one」の精神でチームアプローチが将来に向けて継承され、さらに発展していくことを願ってやみません。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

石川 さんに教えてもらった、
私にとって大切なもの！！

吉田　友則　　船橋市介護支援専門員協議会

私が、石川さんと出会ったのは、10 年くらい前の事だったと思います。

船橋市地域リハ研究会への参加を、船橋市介護支援専門員協議会会長の杉田さんから声をかけて頂き、緊張しながら参加した事を覚えています。

実際に参加してみると、船橋市でご活躍されている多職種の方々が、ざっくばらんに活発な議論をされており、緊張していた私にも、気さくに声をかけて頂き、本当に嬉しかった事を今でも覚えています。

残念な事に、介護職は、医療職に対して、苦手意識を持っている方が多いのが現実です。私も実際に、ケアマネ経験が浅い頃は、医療職の方々とのコミュニケーションを図る際は、とても緊張していました。

石川さんは、船橋市においても、地域との連携に重点を置き、私達、介護支援専門員も含めた、医療職と介護職など様々な職種が、多職種で協働できるよう、お互いの専門性を理解し、連携が図りやすい環境を作って頂いた方だと思っています。

石川さんが中心となって、船橋市の行政、多職種で作り上げてきた、この素晴らしい環境を今後も大切にしながら、どんな方でも、住み慣れた地域で、本人らしい生活が送れるように、地域の仲間と一緒に今後も頑張っていけたらと思います。

石川さん、本当にありがとうございました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

石川 先生を偲んで

小倉　雅治　　船橋市介護支援専門員協議会

私は船橋市介護支援専門員協議会を通じての活動で石川さんのお人柄等を知るようになりました。平成 26 年頃より摂食栄養サポート勉強会にかかわらせていただくようになったのが最初だと思います。

その後は、全国大会のお手伝いや地区勉強会、地域リハ推進委員会の活動などでお会いすることはありましたが、親しくお話することはあまりありませんでした。

しかし、近しい人たちから石川さんのお人柄や功績を聞く機会が増え、少しでもお手伝いできれば思うこともありました。気さくにお声をかけて頂いたときは、聞いていた通りの方だなと思いました。

今回、私が追悼号に寄稿させて頂いていいのだろうかとの思いもありましが、研修会に参加したり、他の方の話を聞いたり、様々な場面で石川さんのことを知った方もたくさんいるのではと思います。

石川さんを知る多くの皆さんと共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

石川 さんへ

塩原　貴子　　船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会

どうしても、石川先生を「石川さん」とは呼べずじまいでした（笑）なので、最初で最後になりますが「石川さん」と呼ばせて頂きます。

石川さんが船橋にいらっしゃり、市立リハビリテーション病院が開院されて、ひまわりネットワークに入る前の「地域リハ研究会」。

必ず美味しいケーキが出て来てみんなでケーキとコーヒーを飲みながら会議をしていたことを思い出します。

この時のおもてなしは、ホスピタリズムを提供する医療福祉介護関係者に、まずホスピタリズムを体感せよと教えてくださっているのかなと思っておりました。病院食って、健康第一！食べやすさ第一！の文化だったのを、変えてくださった方でもあったかと思います。

手弁当で、業務終了後に、それでも集まりたい意識の高い方々が集まり、０から１にしていく大変さを感じながらも、船橋の「地域リハ」という新しい物を作っていく楽しさが毎月あったのを思い出されます。

また、私たちはソーシャルワーカーという職能団体として、ソーシャルワークとリハビリテーションは共通点が多く感じていた部分もありました。リハビリって「Ｒｅ　Ｈａｂｉｌｉｔａｔｉｏｎ＝再び　取り戻す・復権」っていうことなんだな。ソーシャルワークスピリッツにとっても繋がるなと教えて頂きました。

そして、石川さんの病院ではみんな制服も同じ、チーム医療を体現されており人は見かけや名前で尊敬されるのではなく、行いで尊敬されるものなのだなと感じていました。

医療の世界に、石川文化を提供してくれた、光のような方だったと思います！

本当に教えと、気づきをたくさんありがとうございました。

これからもずっと見守っていてください。

石川 先生を偲んで

加藤　寿美　　船橋市栄養士会　会長

石川誠先生の生前のご功績をしのび、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

石川誠先生に初めてお会いしたのは、地域リハの世話人会に船橋市栄養士会から参加させて頂いた時で、船橋市立リハビリテーション病院の会議室で他職種の方に混じり、物凄く緊張していたのですが、司会の石川誠先生から「初めて参加の自己紹介を」と、優しい笑顔で促して頂き、お仲間に加えて頂けたことを覚えております。

石川誠先生から最新の医療と介護の情報を伺いながら、美味しいケーキを頂いて、会議というよりはサロンでおもてなしを受けているような世話人会を毎月心待ちにしておりました。

石川誠先生は、地域リハの世話人会からリハ職だけでなく歯科医師会と栄養士会を結び付け、多職種協働の「船橋市地域リハ研究会世話人会」の立ち上げに尽力され、船橋市の摂食嚥下リハビリテーションの礎を築いて下さいました。私は、摂食嚥下を学びながらいろいろな経験をさせて頂いたことを契機に、摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士になるべく自己研鑽しております。これも一重に石川誠先生にお導き頂いたことであり、心より感謝しております。

突然の訃報に、驚き、悲しみ、これからどうしていけばいいのかと不安で一杯になりましたが、船橋市栄養士会は石川誠先生の遺志を継ぎ、摂食栄養勉強会を支える栄養の専門職として、引き続き協力させて頂きたいと存じます。

どうぞ安らかなご冥福をお祈りいたします。

石川 先生を偲んで

福島　節子　　船橋市栄養士会　副会長

石川先生との出会いは船橋市栄養士会にとって道が開けた瞬間でした。
それは、ネットワークに参加できる様にご配慮を頂いた事でした。船橋市栄養士会は創立 50 年と長い歴史を重ねておりますが、地域貢献に於いて、長い間の課題でした。船橋市歯科医師会よりの依頼事業やひまわりネットワークへの参加、地域リハ拠点事業への参加などで、地域との関わりが増えております。

多職種との連携は、思いもよらない出会いと連帯感があります。困ったときはお互い様、何か役に立てないものかと会の運営で検討されるようになり、意識が変わって来ています。

人との繋がりに気づかされ、多職種との連携で知恵が集まり、地域に還元できるとの深いメッセージを残して頂き、動けば何とかなるとの信念を教えて頂きました。
これまでご指導いただきまして本当にありがとうございました。
これからも、見守って頂きたいと思います。ご冥福をお祈りいたします。

馬場　さつき　　船橋市栄養士会　理事

船橋市栄養士会の一人として、船橋市地域リハ研究会世話人会に参加させていただき初めて石川様にお会いしました。そのとき先生がお話しされた「ここでは先生は使いませんよ、僕のことは石川さんとお呼びください」の一言に驚きました。会議では気さくに参加者に接してくださり、話しやすい雰囲気を作ってくださいました。毎回提供していただいた手作りの美味しいケーキとコーヒに皆さまとの話しも弾み緊張がほぐれたことを思い出します。ロビーコンサートを聴いたときには、「こころの健康」をいただきました。以来病院のイメージが大きく変わりました。毎回、最新の医療の状況をわかりやすくお話しくださり、これからは多職種との連携が重要であることも力説され、「摂食嚥下勉強会」では、歯科医師会と栄養士会を繋げてくださり、栄養士の活動の場を広げてくださいました。

「日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会」に参加する機会をいただき良い経験もさせていただきました。これも地域リハ研究会世話人会に栄養士会も参加させていただいたことでできたことです。栄養士が職場だけでなく地域へ出て行く場を提供してくださった石川様に大変感謝しております。ありがとうございました。

これからも船橋市栄養士会として会員それぞれが研鑽し摂食嚥下勉強会の発展に努めて参ります。

石川様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。　　合掌

石川 先生との思い出

市川　清実　　ふなばし市訪問看護連絡協議会
セコメディック訪問看護ステーション

石川先生と初めてお会いしたのは地域連携パス作成のための会議でした。その会は地域リハ研究会を経て現在のひまわりネットワーク地域リハ推進委員会と発展しました。当初から先生は、職種を分け隔てなく接してくださり、各々の職種が地域を支える大切な役割と感じさせていただける優しい笑顔でいつもいてくださいました。会は和やかに進められ、各職種同志が自然と顔見知りになり、会話も弾みました。何かあったときに頼れる関係作りがここで形成されました。私は地域で活動させて頂くための人間関係という財産をいただく事ができました。また研究会では色々な役割を経験させて頂き本当に感謝してます。

研究会後の打ち上げでは、先生が船橋にいらしたときのお話をうかがいました。新しい土地はどんな場なのか、歴史や情勢等様々調べておられた探求心に驚いたことも忘れられません。先生はいつも周りの事を考えておられるあたたかいお人柄で見守ってくださいました。訪問看護の必要性を会でお話しくださった事忘れません。先生には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。

石川 先生、
船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会は、
再活性化をめざします

池田　喜久子　　船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会　会長

平成 21 年　船橋市医師会と市立リハビリテーション病院が中心となって、「船橋市地域リハ研究会」が、開催され、船橋の地域医療・福祉の仲間が市立リハビリテーション病院に集まり、定期的に会合をもつようになりました。石川先生が中心となり、各団体が意見を交わしあう中で、「船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会」の設立が提案されました。回復期リハビリ病棟連携の会は、県全体のものがすでにあり、船橋市で設立する意味が希薄という意見もあり、たじろぎましたが、設立を後押ししてくださったのは、石川先生でした。

平成 27 年９月に第１回を開催することができ、その後、年に２～３回　市内の６病院で持ち回りで病院見学とグループワークをおこない、熱い時間をもつことができました。コロナ禍でこの２年間は、１回しか開催できていませんが、開催方法を検討し、再活性化していきます。

石川先生が、地域での連携を深めるように推してくださったことを忘れずに。

石川先生、ほんとうにありがとうございました。

石川 誠 先生のご意志である船橋市地域リハ推進に向けて

伊藤　秀一　　船橋市通所リハビリテーション連絡会　会長

船橋市では、平成 19 年、地域リハを推進するために、「船橋市地域リハビリテーション協議会」が設置されました。協議会の活動を補完するため、平成 21 年、石川誠先生が発起人となり、「船橋市地域リハ研究会」が設置されました。研究会の活動を通して、石川先生は、常々、市単位での事業体のまとまりが必要とおっしゃっていたとお聞きしております。

石川先生の声を背景に、各事業体の一体化、連携の促進のために、平成 27 年、市内の通所リハ事業所が集い、船橋市通所リハビリテーション連絡会が発足されました。船橋市通所リハ連絡会は、船橋市の各通所リハが情報交換を行い、市民に質の高いサービスを提供することを目的に活動しています。毎年各事業所の実態調査を行い、市内全体の通所リハの状況を知ることや、関係機関と円滑な連携をとるためのツールとして送迎範囲マップの作成などを行っています。

これからも石川誠先生のご意志をもとに、通所リハ連絡会として地域リハ推進を行い、船橋市の医療・介護サービスの質を高め、市民に優しい、暮らしやすい街づくりに関わっていけるとよいと思います。

石川 先生を偲んで

佐々木　啓人　船橋市訪問リハビリテーション連絡会　会長

石川誠先生の事を詳しく知るきっかけとなったのは、今から５年前の平成 29 年６月 15 日のテレビ東京のカンブリア宮殿の放送でした。その時の紹介テロップは初台リハビリテーション病院理事長となっていて内容も在宅総合ケアセンター元浅草のお話だったので、リハビリ病院のパイオニアで、こんなに熱い想いをリハビリに対して持って下さるリハドクターが世の中にいるんだと単純に驚いたのを覚えています。

それからは早いもので、本当に遅ればせながらで恥ずかしいのですが、医療法人社団輝生会の会長であり船橋市立リハビリテーション病院を開設された事、船橋市地域リハ研究会の立ち上げをされた事を改めて知り、船橋市で訪問リハビリテーションを展開させて頂いている身としてとても身近に感じさせて頂く事になりました。

私は令和３年度から船橋市訪問リハビリテーション連絡会の会長職をさせて頂く事となりました。石川先生が船橋市のリハビリテーションを切り開いていって下さった事を、訪問リハビリテーション展開事業所同士のつながりを深めながら実践していきたいと思っています。今は、お会いしてお話がしたかったです。残念でなりません。

石川 先生を偲んで

久保田　惠子　　船橋市訪問介護事業者連絡会

石川先生の突然の訃報を夏前に伺い心が折れる思いをいたしました。もっともっと教えていただきたいことがありました。残念でなりません。いつも人を見る目が本当にお優しくて、いつも笑顔で接してくださいました。人に幸せを感じさせる特別な力がおありでした。

船橋市訪問介護事業者連絡会の代表として、地域リハ研究会の会議に度々出席させていただいておりました。会議の中で「訪問介護はどうですか？」と必ずお声をかけてくださいました。そして、私どもの定期総会において記念講演をご依頼した時も、ご多忙にもかかわらず、二つ返事で受けてくださいました。その記念講演では、「在宅を支えるヘルパーさんが大切なんだ。リハ職との連携をしてください。一緒にやっていきましょう。」と力強く話されていたことを参加したメンバーは、皆覚えております。先生の熱い激励の言葉に多職種連携の光が見えたような気がしました。訪問介護はもっともっと連携して利用者の生活の質を上げなければいけないと思った瞬間でした。

また、先生は千葉県ホームヘルパー協議会のヘルパーの全県研修会や定期総会でも記念講演をお願いいたしました。参加されたヘルパー全員が先生からの大激励に希望と勇気を頂きました。本当に感謝しかありません。

役職を問わず、職種を問わず、仲間を大切にし、温かく包み、そして一緒に進もうと声をかけてくださる先生のご意思は、船橋市訪問介護事業者連絡会のメンバーも私も、しっかり受け継いでいくことをお誓いします。

石川先生、本当にありがとうございました。

石川 先生を偲んで

石神　敏明　（福寿荘）　　船橋市老人福祉施設協議会

石川誠先生のご訃報に接し、心よりお悔やみを申し上げます。謹んで哀悼の意を表します。

私が石川先生と関りを持たせていただいたきっかけは、「船橋市地域リハビリテーション協議会」の委員となり、また、「船橋市地域リハ研究会」のメンバーとなったことです。石川先生の印象は、会議の議長をやられている様子を思い返すのですが、いつも笑顔でいらっしゃり、会議の時には、参加者の方に声をかけて、発言しやすい雰囲気を作っていただき、とてもやさしい方だったことを思い出します。しかし、リハビリや、地域医療の話しになると、真剣なまなざしで熱い思いを語られていらっしゃったことが印象的でした。

その後、テレビ東京の「カンブリア宮殿」にご出演なさっており、全国的にも偉大な方でいらっしゃったことを改めて認識しました。そのようなお方と少しでも関わりを持たせていただき光栄でした。

現在、輝生会のスタッフの方々と関わりを持たせていただいておりますが、地域リハに熱い思いをお持ちの方が多いのは、石川先生の残された功績なのだろうと思います。

あらためて、故人のご冥福をお祈りいたします。

石川 先生の想い、本人の願いの実現
「One for all，All for one」を永遠に！

藤田　敦子　（特）千葉・在宅ケア市民ネットワーク ピュア

屈託のない笑顔とすべてを包み込んでしまう風貌の石川先生と出会ったのは大学院講義でした。

「早期離床（寝食分離）と自立支援が大事。リハとはすべて地域リハのこと」と、初台リハ病院では日中は普段着に着替えて、食事は食堂で経口摂取を推進、排泄はトイレ、どんなこともあらゆる職種による対等のチームアプローチで話し合い、家庭復帰と自立支援を目的とした個別リハを、365 日間いつでも提供できる体制を組んでいました。

実父が 2004（平成 16）年に 80 代で下肢麻痺・身体障害者 1 級になった時、急性期病院で提供されたリハは、訓練室でバーを使ったリハで、おむつをされ、食事も排泄もすべてベッド上で行われ、退院支援では療養病院か施設入所しか提示されず、自宅に戻って普通の生活を送りたいという本人の願いを実現する為のリハ提供や情報を与えられませんでした。リハビリは全人的復権と言われるのに、誰のため、何のためにリハビリはあるのだろうと思いました。

船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員として、再度石川先生にお会いでき、講義でお聞きした多職種連携も病院を飛び越えて、地域の職種と一緒に勉強会をして、船橋市の地域包括ケアの礎を創って下さった事を知りました。もうあの笑顔に会えないと思うと寂しいです。

でも、先生が残された「One for All，All for One」のリハビリテーション・マインドは絶対に消える事はありません。

これからも、本人の願いが実現できるように見守ってください。

「One for all, All for one」

梅津　博道　　船橋市立リハビリテーション病院　院長

2021年5月24日、医療法人社団輝生会の会長である石川誠さんが逝去されました。リハビリテーションの分野で数々の功績を残され、また多くの人から愛され、尊敬された人物の早すぎる死でした。

医療法人社団「輝生会」ラグビー部夏合宿の集合写真
（前列中央が石川誠さん、その右側が筆者）

私にとって、石川さんは群馬大学医学部とラグビー部の大先輩であり、また社会人になってからは、虎の門病院脳神経外科と医療法人社団輝生会への入職を誘っていただいた恩人であり、さらに私生活では結婚式の媒酌人でした。成人してからの40年以上の間、石川さんの影響を受け続けた生活でしたが、特に輝生会で過ごした20年間の経験は私にとって貴重な財産になっています。

輝生会では石川さんの指導の下、設立当初より現在まで、リハビリテーションを実践する上で、数々の専門職が協同して患者さんの治療に参画するチームアプローチを重視してきました。石川さんは、ラグビー界でよく使われる一節、「One for all, All for one」を常々引用するとともに、より強力なチーム力を実現するために数々のアイデアを考案されました。

医師を含めた全職種で制服を統一、所属は全て病棟配属とする、また20年前の初台開院時から多職種間で情報共有のしやすい電子カルテシステムを導入したこと、などでした。更に、医師を頂点とする無用なヒエラルキーを排除、チームの一体感を強化するための象徴的な戦略として、呼称は職種を問わず、「先生」ではなく、「さん」で統一することでした。この方法は学生のラグビー部時代から医者になった先輩も「先生」ではなく、「さん」と呼んでいた私たちにとっては馴染みやすい習慣でした。

私の医学部学生時代から今にいたる45年間、人生の恩人であり、医療人としても多職種からなる「One team」のリーダーであった「石川誠さん」。人生には赤い糸ばかりでなく、不思議な繋がりがあること、また縁は大切にしなければならないことを教えていただきました。

石川さん　と
船橋市における地域リハ活動

江尻　和貴　　船橋市リハビリセンター　副センター長

船橋市立リハビリテーション病院開院後の船橋市における地域リハ活動は、「船橋市脳卒中地域医療連携パス」の作成から始まりました。

2008年10月、石川さんの声かけで、初会合が開かれ、市内で医療や介護に携わる有志で検討を重ね、パスは完成しました。しかし、間もなく、「千葉県共用脳卒中地域医療連携パス」が出来上がり、船橋市版パスが活用されることはありませんでした。

このことについて、石川さんに尋ねたところ、「残念なんかじゃないよ。あれで、ネットワークができたでしょ。作りたかったのは、このネットワークなんだよ」と全く意に介さない様子でした。そして、このネットワークを活用して、2009年10月、地域リハ研究大会が行われました。

現在まで23回を数える研究大会では、大会を終えると、懇親会を行うことが通例でした。懇親会には、石川さんのこだわりが二つありました。一つは、会場が座敷であること、もう一つは日本酒があること。石川さんは、必ず、会の中盤になると、燗酒とお猪口を持ち、全員の席を回り、熱く語りあいます。そして、必ず懇親会の締めは、輝生会では恒例の、みんなで円陣を組み「ポイントヒア」と呼ばれる掛け声をかけます。

「○○（先生の名前や地域・団体が多い）～！！、ファイト！、オー！！、ファイト！、オー！！、ファイト！、オー！！」。これを行い、互いを称えあいます。懇親会が終わると、皆笑顔になり、会場を後にするのでした。

ポイントヒア

石川さんは、「船橋は、医師会と市の協力体制ができている。さらに、歯科医師会、薬剤師会、ケアマネ協会など団体もできていて協力的だ。地域リハを推進する好条件は既にできている。僕等はきっかけを作るだけなんだよ。船橋をモデルにして、他の地域も（地域リハの推進を）進めて行きたい」と常々話していました。

今、渋谷区・目黒区・世田谷区、そして、台東区でも地域リハの推進が進められています。石川さんの思いが受け継がれ、さらに発展していくことと思います。

＜なかまづくりの大切さ＞

斎藤　伸也　　船橋市健康福祉局健康・高齢部
地域包括ケア推進課　課長

石川誠先生に初めてお会いしたのは、平成 23 年の 4 月でした。

市立リハビリテーション病院の会議室で行われた「地域リハ研究会」の世話人会議です。

あれから 10 年余り。

この間に石川誠先生に教わったことや、ご紹介いただいた全国のリハビリ界の重鎮の方々から得たものは、地域包括ケアシステム構築のための事業に生かされていると考えているわけでして、私が今もなおシステム構築部署に所属し、地域の医療・介護関係者の方々とのネットワークの一員でいられるのも、この間に関係性を構築できた方々のおかげであり、とりわけ石川誠先生のお力が大きいと今更ながら強く思っています。

石川誠先生が船橋市で始めてくださった「地域リハビリテーション協議会」「地域リハ研」の活動が、船橋市の医療・介護連携のプラットフォーム＝船橋在宅医療ひまわりネットワーク活動に繋がり、結果を残せていることに感謝しかありません。

私達に課されていることは、この船橋市という地域で暮らす方々に対する医療・介護サービスの包括的供給体制の維持、量の拡大及び質の担保であり、関わる一人ひとりが、患者・利用者本人の願いをできる限りかなえる包括ケアの担い手であることを認識して頑張ることだと思います。

そして、石川誠先生が残してくれた”なかまづくりの大切さ”を忘れずに、ひとつひとつ前に進んでいきたいと思っています。

写真で振り返る　足跡

第１回研究大会

懇親会

講評　　地区勉強会

懇親会

船橋市における地域リハビリテーション活動の展開について

平成 19 年 5 月船橋市地域リハビリテーション協議会の設置

目的：「高齢者及び障害のある人々が地域で生き生きと自立した生活を送れるよう、急性期から回復期、維持期まで適切なリハビリが継続的に提供される地域リハビリ体制を構築し、推進するために必要な事項を協議すること」

平成 21 年 10 月　「船橋市地域リハビリテーション研究大会」の開催

脳卒中パスを作成する際にできたネットワークをもとに、第 1 回となる地域リハ研究大会を開催しました。この研究大会において、会場や実行委員から、このような研究大会を継続的に行ったらどうかという提案や各地域で勉強会を開催してほしいという声が聞かれました。

船橋市地域リハ研究会の活動開始

研究大会で寄せられた声に応える形で、平成 22 年 3 月に「船橋市地域リハ研究会」と名称を定め、活動を開始し、平成 22 年 4 月 16 日に北部地区で地区勉強会を開催、以後、地域リハの講演会、研究大会を実施してきました。

世話人会の様子

船橋市地域リハ研究会の変遷　　市の事業として運営へ

平成 26 年度より医療法人社団輝生会が船橋市リハビリセンターの指定管理者となり、地域リハビリテーションの推進事業を行う拠点と位置づけられ、地域リハビリテーション拠点事業を行っていくことなりました。

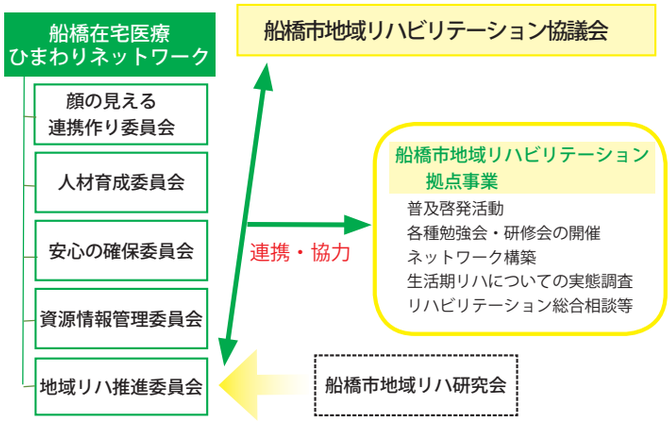
事業内容は、リハビリテーションについての普及啓発活動、各種勉強会・研修会の開催、生活期リハについての実態把握、リハビリテーション総合相談等などです。

このことの意味は、今まで有志で行ってきた「船橋市地域リハ研究会」の活動を、市が市の事業として行ってゆくことを示したものです。

船橋市地域リハ研究会の変遷
ー船橋在宅医療ひまわりネットワークへの合流ー　地域リハ推進委員会として活動開始

船橋市においては、在宅医療の充実と医療・介護の連携を推進するため、「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」が平成 25 年度より活動を開始し、市全体での地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワークシステムが整ってきました。

平成 28 年度より、「船橋市地域リハ研究会」は「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」の委員会のひとつ「地域リハ推進委員会」として活動していくこととなりました。



船橋在宅医療 ひまわりネットワーク　地域リハ推進委員会　ニュース No.1

船橋市における地域包括ケアシステム構築に向けて、地域リハ推進委員会が果たす役割について

石川　誠　氏

表裏一体で進む医療・介護における２大改革

少子高齢化の進む社会の中において、医療提供体制も大きく変化しています。特に 2018 年度の医療・介護保険の改定においては、「早く良く治して、早く地域に返し、地域において適切かつ十分な支援をすること」として、急性期病院と地域包括ケア病棟の役割の明確化など医療機能の分化と連携（地域医療ビジョン）と地域包括ケアシステム推進目標の実現が色濃く示されています。その中でも、回復期リハビリテーション病棟は急性期病院と地域を結ぶ大事な役割を果たしております。また、地域包括ケア病棟は急性期病院からの患者さんの受け入れと在宅からの患者さんの受け入れの両方向からの役割が期待されています。

表裏一体で進む医療・介護における２大改革

1．医療機能の分化と連携の推進（地域医療ビジョン）

2．地域包括ケアシステムの推進

船橋市の地域包括ケアシステム構築に貢献する事を目指しています

現在、地域包括ケアシステムの構築が課題となっておりますが、船橋市は市長さんが先頭に立ち、「健康寿命日本一」のかけ声のもと他市町に比べ、先んじています。私たち地域リハ推進委員会は構成団体は 16 団体と多く、船橋市の行政と連携して地域密着型をめざした活動を行い、地域包括ケアシステム構築の一翼を担ってきました。以前は地域リハ研究会として活動して参りましたが、平成 28 年からは「船橋市在宅医療ひまわりネットワーク」と合流し、5 番目の委員会として活動しています。活動内容は、船橋市をリハビリの面で支えてゆくと言うことにつきます。そのひとつとしては、現在船橋市リハビリセンターが船橋市から委託されて行っている地域リハビリテーション拠点事業（普及啓発活動、各種勉強会・研修会の開催、ネットワーク構築、生活期リハについての実態調査、リハビリテーション総合相談等）の円滑な活動へのサポートは大事な役割となっています。

本冊子の発行　と　障害児対応を知る

昨年度は当委員会が取り組むべき新しい課題を検討してゆくなかで、リハビリテーションについての知識や活動について、幅広く市民のかたにお伝えすることができないかということで、本冊子の発行に至りました。また、もう一つの取り組みとして、高齢者に目が向いていますが「障害児対応はどのようになっているのかを知る」ことの活動が端緒についたところです。

社会はまさに高齢化にむかってまっしぐらです。地域リハ推進委員会はひまわりネットワークの活動の中で、年老いても障害があっても、住み慣れたところでその人らしく生き生きと生活ができ、「生きていて良かった、生きてきて良かった」と思えるようなまち作りに少しでも貢献できればと思っています。

平成 31 年 1 月　発行　より　　引用

編集後記

この追悼集は、地域リハ推進委員会からの発議と船橋在宅医療ひまわりネットワークの役員会での承認の元、作成準備に入り、地域包括ケア推進課の松川さんのご尽力で、船橋市における多くの関係者からの「偲ぶ言葉」が寄せられ、発刊することができました。船橋市においても石川誠氏は大きな足跡をのこしていた事がうかがい知れます。

私にとっては、石川誠氏の影響は大きく、群馬大学医学部そしてラグビー部の友人としての 55 年間があり、大学時代は東医体での優勝をめざした時間が思い出されます。卒業後はそれぞれの道を歩み、12 年前から石川門下に入り、現在に至っていますが、地域でのリハビリテーションについては、船橋モデルで多くの勉強をさせてもらっています。

石川誠氏の業績については、近森リハビリテーション病院の立ち上げの苦労を「夢にかけた男たち」で読んだり、「東京へ、この国へ、リハの風を」で知ることができます。そして、特に初台リハビリテーション病院を開設してからは、回復期病棟を全国に広げるエネルギッシュな取り組みを行っている姿を見てきました。併せて、急性期から回復期、地域へのリハビリの流れが日本の医療を変えるきっかけになればとの強い思いは、船橋市における活動にみてとれます。

船橋市での活動では、病院関係者のみならず、行政・医師会・介護関連施設のメンバーとの連携強化に力を注ぎ、地域リハの一つのモデルを構築する努力をしていました。この船橋モデルは、東京における初台リハビリテーション病院を中心とした区西南部の地域活動にも広がり始めたところです。

日本の医療を変えたい、変えるとの強い信念をもって、「チームアプローチ」を合言葉に、多くの人を鼓舞してきた石川誠氏の生きざまに対し、友人として心から敬意を表しています。

この追悼集が、船橋市における地域包括ケアの充実の一助になれば幸いです。

船橋市リハビリセンター　センター長
船橋在宅医療ひまわりネットワーク　地域リハ推進委員会委員

石原　茂樹

令和３年度　地域リハ推進委員会出席委員一覧

一般社団法人船橋市医師会	松岡かおり、吉田幸一郎、鳥海正明
公益社団法人船橋歯科医師会	齋藤俊夫、田代晴基、飯島美智子 遠田なほみ、山崎繁夫、飯嶋和斗
一般社団法人船橋薬剤師会	杉山宏之、永井葉子
一般社団法人千葉県理学療法士会	高木秀明
船橋市介護支援専門員協議会	吉田友則、小倉雅治、松本重訓
船橋市ソーシャルワー力一連絡協議会	半沢美由紀、斉藤千尋
ふなばし市訪問看護連絡協議会	五日市奈緒美
船橋市訪問介護事業者連絡会	久保田惠子、河津美智子
千葉県在宅サービス事業者協会	島田晴美、佐藤健一、清水裕也
船橋市栄養士会	加藤寿美、福島節子、馬場さつき 下田久美
船橋市介護老人保健施設協会	塩原貴子
船橋市老人福祉施設協議会	林茂樹、石神敏明
船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会	池田喜久子
船橋市訪問リハビリテーション連絡会	佐々木啓人
鉛橋市通所リハビリテーション連絡会	伊藤秀一
船橋市デイサービス連絡会	北原淳力
船橋市障害福祉施設連絡協議会	宮前篤史
船橋市在宅医療支援拠点　ふなぽーと	松本淳
船橋市立リハビリテーション病院	梅津博道、鳥居和雄、石川二郎
船橋市リハビリセンター	石原茂樹、江尻和貴、泉水泰良
船橋市中部地域包括支援センター	福世絢子
事務局：	斎藤伸也、窪田歩、滝野正悟 玉川啓大、松川基宏

地域リハ拠点事業
ホームページはこちら

令和４年３月発行　船橋在宅医療ひまわりネットワーク
（事務局）船橋市　地域包括ケア推進課　☎ 047 － 436 － 2882

ひまわりネットワーク
ホームページはこちら